

咀嚼器官の機能と機能障害学特論

Advanced Course of Function and Dysfunction of Masticatory Organ

キーワード

- ① 咀嚼器官の機能
- ② 咀嚼器官の機能障害
- ③ 自家歯牙歯冠移植
- ④ 修復
- ⑤ 移植

授業概要

咀嚼器官の機能と機能障害について学習し、当科の研究テーマの一つである、自家歯牙歯冠移植についての体系的な知識を得る。前半にて、咀嚼器官の機能とその機能障害についての講義を行う。後半では、機能回復のための自家歯冠移植の手法と今後の可能性について最新の研究論文を輪読しゼミ形式の授業を行う。

授業科目の学修目標

歯牙移植は人工的に作られるインプラントやブリッジにはない安定感があり、さらに自分の歯で行うので異物反応が起きないというメリットがあり近年歯科医療においてクローズアップされてきている。解説や学修体験を通じて必要な知識・態度・技能を体系的かつ包括的に修得する。

授業計画

- ① 近年における自家歯牙歯冠移植についての知見を最新の論文等を活用し解説を行う。
25コマ 山口徹太郎
- ② 実際に自家歯牙歯冠移植を行った例を症例を発表する形式で学修体験する。 5コマ 猿田樹理

教科書および参考書

自家歯牙移植、クインテッセンス出版株式会社、月星光博（著）

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

講義の前には、実験プロトコルを指導教員に確認をし、理論を熟知して講義に臨むこと。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 自家歯牙歯冠移植について最近の論文を踏まえ説明することができる。
- ② 咀嚼器官の機能と機能障害を説明することができ、一般的な歯の修復や移植について理解し説明することができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
0%	0%	50%	0%	0%	50%	0%

評価の要点

- ・口頭試問は、授業計画で行った知識の理解度を判定する。25%×2回=50%
- ・レポート提出、症例発表で学修体験したものを2回に分けてまとめる。25%×2回=50%

理想的な達成レベルの目安

咀嚼器官の機能と機能障害学特論の理想的な達成レベルは80%以上とする。